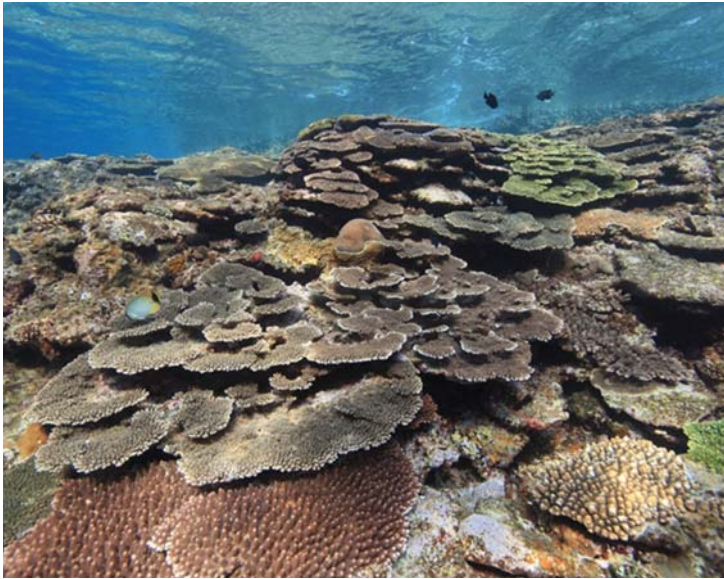


慶良間諸島海域

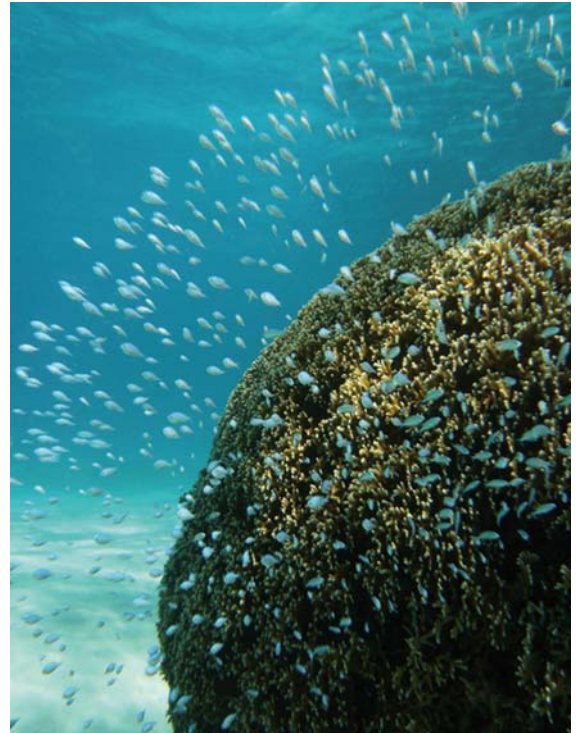
(けらましょとうかいいき)

位置：北緯26度12分、東経127度21分／標高：0m／面積：8290ha／湿地のタイプ：サンゴ礁／保護の制度：国立公園海域公園地区／所在地：沖縄県渡嘉敷村、座間味村／登録：2005年11月／国際登録基準：1、2、3、8

湿地のタイプ：サンゴ礁



高密度で分布する造礁サンゴ



サンゴ礁は熱帯林とともに生物種が豊富な生態系



慶良間島の北岸の景観

湿地の概要：

慶良間諸島は、沖縄本島の西方20～40kmにある渡嘉敷(とかしき)島、座間味(ざまみ)島、阿嘉(あか)島、慶留間(げるま)島など30あまりの小さな島々である。最大の渡嘉敷島で面積は1500ヘクタール。渡嘉敷村と座間味村の二つの村で人口は2000人弱。自然度の高い日本でも有数の美しい海域である。

2005年に渡嘉敷島の西岸海域120ヘクタールと、座間味島と阿嘉島間の海域233ヘクタール(合計353ヘクタール)が、ラムサール条約湿地として登録されたが、2014年に一帯が「慶良間諸島国立公園」に指定されたのを受けて、国立公園内の海域公園地区の範囲(8290ヘクタール)に登録区域が拡大された。

サンゴ礁：

慶良間諸島海域の海中には、テーブル状、枝状、角状、塊状などの造礁サンゴが高い密度で分布し、248種のサンゴが確認されている。特に渡嘉敷島西岸に

はテーブル状、枝状のミドリイシが著しく発達し、場所によってはサンゴの被度は90%以上にもなる。周辺海域はサンゴの幼生の供給源にもなっており、すぐれた景観ばかりでなく、学術的にも貴重な海域である。

サンゴ礁は熱帯雨林とともに生物種が豊富な生態系であり、スズメダイ類やチヨウウオ類、ベラ類など、サンゴ礁特有の、色彩豊かな多種多様な魚類が生息している。

エコツーリズム：

この海域は透明度が高く、気候は温暖で、水温も月平均値が20℃を下回ることがなく、ダイビングには絶好の条件を備えており、毎年多くのダイバーが訪れている。かつてオニヒトデの大量発生でサンゴが壊滅的な被

害を受けたことがあり、地元の人々によって熱心にオニヒトデの駆除がおこなわれ、保全対策が講じられている。冬季には、ホエールウォッチングもおこなわれる。

【造礁サンゴ】サンゴ(サンゴ虫)には、サンゴ礁を形成するものとしらないものがあり、サンゴ礁を形成するものが造礁サンゴである。造礁サンゴの体内には藻類の褐虫藻が共生し、彼らの光合成作用によって炭酸カルシウム(石灰)の分泌が促進され、サンゴ礁が形成される。造礁サンゴの代表がミドリイシで、群体形が多様でテーブル状や枝状、塊状など変化に富んでいる。

●関係自治体

渡嘉敷村役場 Tel: 098-987-2321

座間味村役場 Tel: 098-987-2311

